

第 2 回河津川水系流域委員会 議事要旨(案)

1. 委員会の開催日時と開催場所

- ・委員会開催日時：平成 28 年 11 月 1 日（火）12：15～15：30
- ・委員会開催会場：河津町役場 議場

2. 討議事項

- ・議題 1：第 1 回河津川水系流域委員会の意見の報告
- ・議題 2：流域及び河川の概要
- ・議題 3：河津川流域の現場視察

3. 開会

4. 挨拶

- ・河津町長
- ・河津川水系流域委員会 委員長

5. 議事における主な意見の内容

(1) 第 1 回河津川水系流域委員会の意見の報告

- ・特に意見なし。

(2) 「流域及び河川の概要」と「河津川流域の現場視察」

○委員（意見）

近年の大雨の発生頻度の増加等から、河津川での治水対策の重要性については分かった。しかし、桜まつりの経済効果は毎年 300 億円以上であると試算され、河津桜は河津町の産業経済の底支えをしている大事な産業であり宝である。堤外地側に桜を植えてあるから危険という単純な考えではなく、お互いに共存できる方法を考えられないか。例えばかわづいでゆ橋の左岸は堤防を補強しながら堤内地側に盛土し、そこに桜を植えているようにした。堤外地側の桜はなくなっても桜並木は存在させる方法について、この河川整備計画で検討してほしい。

○委員長（意見）

堤防上の樹木の影響で堤防が崩壊したという例ないと思う。しかし、堤体内に桜の根が張るため空隙が発生する心配がある。河津桜は町の宝であることから、堤防整備では桜の取扱いを最重要として計画を策定することが重要である。

○事務局回答

桜の管理者の河津町や過去桜を植えてきた方々といろいろ調整しながら、治水上の課題について皆さんと話し合うような形で、治水対策と桜の共存について考えていきたい。

○委員（意見）

天城山系ではシカにより笹がほとんどなくなってしまい、ブナの芽さえ出ない。このため、大雨が降ると河津川には真っ赤な土が流れ、その土は河口や中流域にたまり、水害被害さえもたらしかねない問題であるので、山のことも考えてほしい。

○委員長（回答）

上流域で土砂が出てくる場合は、本当に心配な植栽状況であり、防災上も問題である。しかし、河川整備計画は降った雨の水を安全に流すための治水対策を整備し、川を含めた環境を整備し、川における利水を整備するということになる。

○事務局回答

河川整備基本方針の策定の際に議論しており、川に土砂が流れ込む対策としての砂防事業、森林管理は農林事務所と調整しながら、流域と一体となって治水対策を進めていきたいと考えている。

○委員（意見）

河川改修では、石とか岩とか全部なくなってほぼ平らにすることがよくある。河津川も大きな岩がなくなって平らになりつつあるが、水生生物には隠れ場所が欲しい。河川改修では計画的に魚類が隠れるスペースを考えていただけると、利用者としてはありがたい。

○委員長（質問）

河津川の河床は変化しているのか。

○委員（回答）

河津川は河床が平坦な川に多いオイカワが非常に少ない。オイカワは河川改修で川底を平たくすると急激に増えることが知られており、日本全国の川の中で一番多い魚である。しかし、河津川ではオイカワが非常に少なく、河床が平たかない川と言ってもいい。しかし、河床を平べったくすると魚類相が変わってしまう恐れがあるので、河床の形状には気をつけてほしい。

○事務局回答

内水面漁協の各組合長と意見交換し、流路には多自然型の多様な水面を持つような改修工事を実施している。また、維持管理もこの点に配慮して実施していきたいと考えている。

○委員（質問）

河床を整備する時期は、魚が海へ下る時期や遡上する時期を考慮しているのか。

○所長（回答）

河口部の工事時期については、アユの産卵期とか上る時期等について内水面漁協さんの意見を聞いて配慮している。そのほかの魚についても意見をききながら検討したいと考えている。

○委員（意見）

資料 2-2 の P62 の「河川と地域との関わりの現況：住民活動」に記載されている「・・・アマゴやモズクガニの放流・・・」をアユの放流に訂正してほしい。

○事務局回答

訂正する。

○委員（意見）

資料 2-2 の P58 の「河川と地域との関わりの現況：河川空間利用」において、階段護岸などの親水護岸の整備は非常にありがたい。しかし、ヨシやアシが繁茂し、水の流れるエリアが狭められており、子供たちはどこからでも川へ下りて遊べるという危険な状態である。このため、河道内の樹木管理について検討してほしい。

○委員（意見）

河津川に繁茂する植生は前と比べて違ってきているという印象を受ける。河川に繁茂する植物の場合、ヨシの仲間はよく生えるが、ツルヨシはないと思っていたら、この草がいっぱい生えている。温暖化による影響と考える。

○委員（意見）

文化財の保護の観点からは、流域の方々が安全に暮らせれば文化財も保護されると考える。その点で、浜橋周辺の津波高に対する堤防高の低さとかかわづいでゆ橋付近で見たように、普通の土手に桜が植わっている状況については非常に心配であり、流域に住む方々が安全に暮らせる方策を考えるべきである。

○事務局回答

浜橋の堤防津波対策については、液状化等を含めて具体的な対策方法を考えていきたい。

かわづいでゆ橋のところについては、堤防の形そのものを安全な形にしたほうがいいので、次

回にはどのような形にするかについて提案する。

○委員（意見）

笹原公園前の階段護岸の反対側(右岸側)は堤防がなく道路となっている。この付近の荒倉橋は流域で一番狭いので、水がたまる率が非常に高く、県道谷津線が侵食されて崩壊する可能性が非常に高いと考えられる。さらに、反対側の笹原側も浸水の可能性もあるので、早急に検討してほしい。

○事務局回答

流下能力も含めて、次回に向けて検討する。

○委員長（質問）

堤防の草刈りはやっているのか。

○事務局回答

資料 2-2 の P62 の「河川と地域との関わりの現況：住民活動」に記載しているように、峰大橋から下流部にかけて地元の方が積極的に実施していただいている。区では大堰地区、ボランティア活動の中では根岸会、笹原子供会、浜同志会でやっていただいている。そのほかに商工会や観光協会については、草刈りやごみ拾い等を河津川、市街地の区域でやっていただいている。

なお、ボランティア活動をしている方に草刈りの刃とか草刈り機とか軍手とかを貸し出すリバーフレンドシップという制度があるので、これを積極的に活用してほしい。

○委員（意見）

資料 4-2 の「二級河川河津川における河津桜維持管理行動計画」の P1 に、「桜の根が堤防に入らないように外側に盛り土をして植える場合は OK です」と表現してある。しかし、桜の根は葉っぱが茂っていたら、この真下まで伸びているというのが常識である。このため、盛土したところに桜を植樹した場合にも、堤防の中に根っこが入る場合があるため、入らない方法について農業試験場と一緒に検討したほうがよい。

○委員長（意見）

堤防の中の根の張り具合の状況は超音波計測で把握することは可能である。河津桜は宝であり、堤防と河津桜は切っても切れない縁になっているため、何か所かサンプル的に調べるのいいのではないか。

○委員（質問）

河川整備計画としては、津波対策としては下流域の堤防をかさ上げする。洪水対策としては、「河津川の内側のほうに植わっている桜は、堤防の強度的に問題があるので、堤防の外側へ移植

する計画とする。」ということなのか河川整備計画策定に向けての県の意向を聞きたい。

○事務局回答

資料 4-1、4-2 の河津桜維持管理指針と行動計画では、桜が老木になってから、植えかえるときに堤防の外側に植えていこうというのがこの行動計画になっている。また、治水上安全でなければいけない箇所での桜の取扱いについて、今後どうしていくか考えていきたい。

堤防整備をどうするのか、まちづくりをどうするのか、防災対策と桜並木の共存とはどうあるべきか、という大きな課題への対応について、次回に提示したい。

6. 挨拶（閉会に当たって）

・所長

7. 閉会

以上

参考 [現地視察]

現地視察①(浜橋地点) : 今後の津波対策の事業規模についての説明

田中委員長

津波の高さ・津波到達時間に関する質問があり、右岸の山に逃げる提案があった。

事務局回答

避難方法は現在検討中であり、誘導看板・手すり・スロープなどを考えている。

現地調査②(笹原公園) : 笹原公園前の河津川護岸の整備と桜の移植状況についての説明

野口委員

ツルヨシ、ヨシ、オギ、ススキの説明があった。

島崎委員

瀬の範囲におけるアユの産卵場の話があった。上下流にも同様の産卵場があったが台風 9 号、10 号でここだけになった。学生による調査も実施したことがある。

現地調査③(かわづいでゆ橋) : かわづいでゆ橋上下流の左岸堤防の整備状況についての説明

特に意見無。